

赤ずきんちゃんを基にした話

赤ずきん

お婆さん

狩人

オオカミ

清水

客入れ

暗転

音楽

語り部 10年前

照明、うつすらと(青)

舞台上、下手側に、赤ずきんとお婆さんがいる

赤ずきん、赤ふん。

赤ずきん おばあちゃん。

婆 どうしたの、赤ずきん。

赤ずきん 本当にやるの。

婆 ……

赤ずきん 私怖い。

婆 大丈夫。

赤ずきん 私怖いよ。

婆 赤ずきん、大丈夫、お婆ちゃんがついてるから。

赤ずきん 失敗したらどうなるの。

婆 ……

赤ずきん 失敗したら、私たちどうなっちゃうの。

婆 失敗したときのことなんて考えちゃ駄目。

赤ずきん でも、

婆 赤ずきん。

赤ずきん ……

婆 大丈夫、絶対に上手くいく。

赤ずきん ……

婆 大丈夫。

赤ずきん、うなずく

婆 落ち着かない

婆 遅いわね。

赤ずきん 狩人さん？

婆 もうそろそろ来ても良い頃だと思うんだけど。

赤ずきん 狩人さんの身に何かあったのよ。
やっぱりやめた方が良さそうだわ。

婆 少し遅れてるだけ。
大丈夫、今来るから。
お婆ちゃんも緊張してるのかな。

狩人 周囲を気にしながら登場

狩人 コンコン。

婆 ！

赤ずきん 狩人さん。

婆 しっ。

狩人 コンコン。

婆 東京進出おめでとう。

狩人 劇団サザンカンパニー。

婆 狩人さんよ。

赤ずきん、狩人の方へ行き、扉を開ける

狩人 遅くなつてすみません。

赤ずきん 狩人さんの身に何かあったのかと思った。

狩人 心配かけてごめんね。
ちょっと、髪型が決まらなくて。

赤ずきん …そうなんだ。

狩人 後、服も迷つて。

赤ずきん …そうなんだ。

婆 何にせよ、来てくれてありがとう。

狩人 遅くなつて、すみません。

婆 結局、どうにもならないのかと思つてしまったよ。

狩人 すみません。

でも、大丈夫です。

私が、絶対にあなたたちを救つてみせます。

赤ずきん 狩人さん。

狩人 もうすぐですね。

婆 そうだね。

狩人 準備は、出来てますか。

婆 ああ。
私は大丈夫、できてる。

狩人 ……

赤ずきん 私は、怖い。
本当にうまくいくのかしら。
私は怖いわ。

狩人 大丈夫。
僕がついている。

赤ずきん でも、でも、

狩人 大丈夫。

婆 赤ずきん。
このままここにいても、私たちに未来はない。
やるしかないのよ。

赤ずきん お婆ちゃん。

狩人 赤ずきんちゃんは何もしなくていい。
僕と、お婆さんがうまくやるから。

婆 そう。
赤ずきん、お前は、そこでじつとしてれば良いの。

赤ずきん ……うん。

婆 じゃあ、狩人さん。

狩人 はい。僕は、そこに隠れています。
そして、後ろから一つそり近づいて、

赤ずきん ねえ。

婆 ……

狩人 ……

赤ずきん 本当にやるしかないのかな。
もつと他に、

婆 やるしかないの。
言っただけでしょ。このままここにいても、私たちに何の未来もない。
未来がないだけじゃない。
ただただ辛い思いをしていだけ。
……
やるしかない。

赤ずきん ……

狩人 赤ずきんちゃん。
君はそこで、目を閉じて、耳を塞いでいけば良い。
後のことは、僕たちに任せて。

赤ずきん ……

狩人 すぐ終わるから。

狩人 赤ずきんの頭を撫でる。

狩人 随分、綿がしっかり入った 頭巾だね。

赤ずきん それ、髪。

狩人 あ、ごめん。

狩人 やばい、もうすぐ、オオカミがくる時間ですね。

婆 そうだね。

狩人 じゃあ、僕、そこに隠れてますから。

婆 後は、手筈通りに。

婆 分かった。

赤ずきん、婆、下手側に

狩人、上手奥に潜む

オオカミ、登場。酔っ払っている

舞台中央付近で、ドアを開ける

オオカミ おゝす。

婆 お疲れ様です。

オオカミ お疲れ。頑張ってるか。

婆 はい。

オオカミ 婆、お前には聞いてねえよ。

赤ずきん、頑張ってるか。

赤ずきん はい、頑張ってます。

オオカミ よよし、良い子だ。

狩人、後ろからこっそり近づいて。

吹き矢

照明、赤

オオカミ うっ

オオカミ、首の後ろを抑える

狩人 今です。

婆 はい。

婆、オオカミを正面から何かで刺す

オオカミ うわっ。

オオカミ、倒れる。
照明、青

婆 はあはあはあ。
狩人 お婆さん、大丈夫ですか。
婆 ∴大丈夫、大丈夫。
狩人 よくやりました。
婆 オオカミは、オオカミは。
狩人 大丈夫です。死にました。
婆 良かった、良かった。
狩人 さあ、後のことは僕に任せて、赤ずきんちゃんと逃げてください。
婆 ああ、ああ。
そうだね、そうだね。

狩人、婆にびんた

狩人 お婆さん、しっかりしてください。
婆 すまない。
狩人 気が動転するの分かります。
ですが、大事なのはここからです。
落ち着いてください。
婆 すまない。
大丈夫、もう落ち着いたよ。
そうだね、赤ずきんを連れて、逃げないとね。
狩人 そうです。
婆 赤ずきん、赤ずきん。

赤ずきん、目を閉じて、耳を塞いでいるから聞こえない。
婆 赤ずきんをびんた

婆 赤ずきん。
赤ずきん 終わったの。
婆 上手くいったよ。
赤ずきん お婆ちゃん。
婆 さ、逃げよう。
赤ずきん うん。

婆 赤ずきんの手を取り、逃げようとする

赤ずきん、立ち上がり、去ろうとするとき、倒れているオオカミをみて、驚く

赤ずきん キヤッ。
死んでるの。
狩人 そうだね。
見事に、心臓を一突きだ。
赤ずきん …
婆 お前は見なくていい。
赤ずきん もり見ちゃったけどね。
狩人 君たちは、これで自由になったんだ。
今日のご事は忘れて、これから先、しっかりと生きていくことだけを考えれば良い。
赤ずきん ねえ。
オオカミさんはどうなるの。
狩人 僕が処理しておくよ。
赤ずきん 処理。
狩人 腹を裂いて、石を詰めて、湖にドボンだ。
赤ずきん …
婆 お前は聞かなくていい。
赤ずきん 聞いちゃったよ。
狩人 とにかく、君たちは何の心配もしなくていい。
早く逃げるんだ。
婆 ありがとう。
赤ずきん 狩人さん、ありがとう。
狩人 さ、早く。

婆、赤ずきん、退場

狩人 さ、僕も早く、こいつを処理して、ここを立ち去らないで。

照明、暗転

音楽

照明、舞台全体

舞台上、椅子に下手側から、婆、赤ずきん、狩人の順に座っている

清水、登場

清水 お待たせしました。
清水です。
よろしく申し上げます。

三人 …

清水 それじゃあ、そちらから
婆。

婆 ::
清水 赤ずきん。
赤ずきん はい。
清水 狩人。
狩人 はい。
清水 今日はよろしく願います。
三人 よろしく願います。
清水 単刀直入に言います。
皆さんも、薄々分かっているとは思いますが、
今日、皆さんにお集まりいただいたのは、10年前に起こった、オオカミ殺害の件について
です。
三人 ::
清水 それではまず、
狩人 すみません。
今、私たちが、薄々わかっていると思うっておっしゃってたんですけど
正直、何のことだか、さっぱりわかりませんね。
何ですか、オオカミの殺害。
私たちに何の関係があるっていうんですか。
清水 ::
狩人 ねえ。
婆 そうだ、そうだ。
清水 そうですか。
狩人さんにとっては、寝耳に水だと。
狩人 そうですね。
清水 お婆さん、あなたも。
婆 もちろん。
清水 赤ずきんちゃん、君も。
赤ずきん ::はい。
清水 なるほど。
狩人 ということで、帰らせていただきます。
帰りましょう。

三人、立つ

清水 ちょっと待つてください。
三人 ::
清水 まだ、あなたたちを帰すわけにはいきません。
狩人 どういうことですか。
清水 座ってください。
三人 ::

清水 はつきり言えばですね。
あなた達は、身に覚えのないことだと言つてましたが、私は確信しています。
オオカミを殺したのは、あなた達だと。

狩人 あなたね。

清水、狩人を制止

清水 ゆつくり行きましょうよ。
色々調べさせてもらいました。
今から、調べたことを、言つていきます。
そうすれば、あなた達も、納得してくれると思うんですよ。
オオカミを殺したのは、自分たちだって。

婆 私たちはやってない。

清水 オオカミさん、とつても評判が悪いですね。
良い話、ほとんど、いや、まったく、聞こえてきませんでした。
良く思われてないですね。

一見親切そうなんだけど、全然そんなことがない。

ぐうたらで、すぐ樂をしようとする。

自己中心的で、非を認めず、謝らない。

食い意地がはつて、食い方も汚い。

おなのに、目の前に食べ物があると、まったく我慢できない。

あなた達も被害を被つてたんじやないですか。

三人 ∴

清水 あなた達も、オオカミに被害を被つてたんじやないんですか。

狩人 何を言ってるんですか。

私たちとオオカミは全く関係ありませんよ。

婆 そうですよ。

私は、森の奥深くみたいところで、ひっそりと暮らしているし、

赤ずきんは、今は野辺地で、いろいろ楽しんでるし、

オオカミとの接点がないでしょ。

清水 狩人さんは、狩人なのに、オオカミとは全く無関係なんですか。

狩人 私は、鹿茸問なので、オオカミとは無関係です。

清水 なるほど。

狩人 肉食の動物は臭いから、嫌なんです。

私の獲物は、草食系です。

清水 そうみたいですね。

調べた結果もそうでした。

狩人 何が言いたいんですか。

清水 そうなんですよね。

婆が言つたように、皆さん、それぞれが、それぞれの生活を送ってるんですよ。

日常を見る限り、接点がどこにも見当たらない。
接点がないのに、殺意を抱けるわけないでしょ。
あなた達と狩人さんは、どういう関係なんですか。
婆と赤ずきんさんは身内だとして、狩人さんは他人ですよ。
おかしいでしょ。
今日、皆さんをお呼びして、初対面って感じが、まるでないですよ。
何で、狩人さんとお知り合いなんですか。

婆
それは、…
狩人さんがたまに、とった獲物を、私たちに分けてくれるんですよ。
私が痩せてるから、肉も食わないと駄目だよって。
狩人
そう。
鹿専門なんだけど、たまに、ウサギ獲ったりするから。
ウサギを。
動物性タンパク質、大事だから。
清水
なるほど。
良い関係ですね。
狩人さんは草食系の獲物専門で、たまにウサギを、お二人に分けたりする。
どこにも、オオカミは関係しませんね。
婆
あなた、何が言いたいんだ。
完全に無駄な時間じゃないですか。
何もないなら、帰らせてもらいますよ。
狩人
木の枝を集めなきゃいけないんだ。
僕も歯医者に行かなきゃいけない。
清水
苦労しましたよ。
あなた達と、オオカミの接点。
なかなか分かりませんでした。

三人
…
清水
あなた達と、オオカミが全く関係ないんだったら、殺意なんて生まれませんからね。
あなた達を結びつける何かが、どこかにあるんじゃないかって。
そしたらね、見つけちゃったんですよ。

三人
…
清水
ポスター。

三人
…
清水
劇団やってますよね。
あなた達、同じ劇団に所属してますよね。
びっくりしましたよ。

三人、頭を抱える

清水
確かにポスターには、婆、赤ずきん、狩人、あなた達の名前は載っていませんでした。

でもね、あなた達の劇団の特徴なんでしょうね。
あなた達をモデルにした絵のポスターが多い。
特に、婆と赤ずきんさんはしよつちゆうモデルになってますよね。
意外に特徴とらえてると思いますよ。
だから分かったんですけど。
あなた達は、オオカミと全く関係がないと言っていましたけど、それは嘘です。
オオカミも、同じ劇団に所属していましたね。

この耳は何のためについてると思いますか。
あなた達が言ってるのが、本当なのか、嘘なのか、しっかり聞き分けるためです。
この目は何のためにあると思いますか。
あなた達が嘘をついていないか、表情の変化をしっかりと見極めるためです。
この手は何のためにあると思いますか。
あなた達が嘘をついて、この場から逃げないように、しっかりと捕まえておくためです。
この口は何のためにあると思いますか。
あなた達に真実を語ってもらうために、自分が調べたことをしっかりと伝えるためです。

話してください。
何があったのか。
なぜ、オオカミを殺さなければいけなかったのか。
耐えられなかったんです。
限界だったんです。

婆

清水

狩人

確かに、私達は、同じ劇団に所属しています。
オオカミは一応、私と赤ずきんの先輩にあたります。

婆

狩人

私とオオカミは同期です。
さっき言っていたように、オオカミは、本当に評判が悪かったんです。
努力はしないし、かといって才能もない。
裏方の仕事もほとんどしない。しないというよりは、できない。
お荷物だったんです。

婆

私と赤ずきんは、すぐにオオカミより、上手くなっていきました。
そうなる当然、私達の方が出番が増えていきました。
オオカミの出番は、どんどん減っていきました。
それだけなら別に良かった。
実力が一番大事なんで、出番の多さは、相応というか。
狩人さんも、赤ずきんも、出番が増えるにつれて、どんどん上手くなっていくし。
何の問題もない。
そんな中でも、後輩にどんどん抜かれているにもかかわらず、オオカミは何もしませんでした。
何もしないなら、何もしなくて良い。

でも、オオカミの野郎。

狩人 オオカミはね、言葉巧みに言い訳をするんです。
それで、一番の立場の弱い、赤ずきんのせいにするんです。
その位なら、まだ良かった。
私達がフオローしていけば良いんですから。

婆 オオカミはね、自分より偉い奴は、媚びへつらうのに、下にはやたらと高圧的なんです。
同期の私にも、常に上から目線でした。

狩人 それでも、私とお婆さんは、まだ良かった。
実害がありませんでしたから。

婆 でも、赤ずきんは。

清水 赤ずきんさん。
あなたと、オオカミの間で、何があつたんですか。

赤ずきん …

清水 何があつたんですか。

赤ずきん 最初は信用していました。
ポジションも似たような感じでしたし。
こうすれば良いよとか。
こういうものを用意すれば良いよとか。
私にアドバイスをしてくれてるんだなって。
嬉しかった位です。
でも、違つてたんです。
そのアドバイスは、全部裏目に出るようになってたんです。
そうやって、私を食おうとしてたんです。
そのちよつと前から、オオカミ、食い気味だなとは思つてたんですけど、
私を、食おうと思つてたんです。

清水 ちよつと待つてください。
食う。つてどういうことですか。

狩人 ステージ上で、わざと、赤ずきんの存在を消すかのようなことをするんです。

婆 しかも、それがつまらない。

狩人 赤ずきんは、健気に頑張つていたのに。

婆 オオカミは、何の努力もせず、嘘をついて、赤ずきんを食おうとする。

狩人 限界だつたんです。

婆 これ以上、オオカミに、うちの劇団を食い物にされてたまるか。

赤ずきん あの日は、私のピンライヴの稽古でした。

婆 異例の抜擢で、赤ずきんはピンライヴが決定していたんです。

狩人 私達は応援していました。
でも、

清水 オオカミは違つていた。

赤ずきん はい。

自分が出ないにもかかわらず、演出に怒られるようなことばかりして、
私の稽古を邪魔しました。
演出が機嫌が悪いと大変なんですよ。
たまに稽古ができたとしても、凄いいやらしい感じの、小馬鹿にするような笑いを
入れて、私の自信を削ぎ落としていきました。
狩人 許せなかった。
婆 だから、狩人さんと話をして、
清水 殺すことにした。
赤ずきん 私が悪いんです。
私がピンライブを断ればよかったです。
ピンライブを断つていれば、こんなことには
狩人 いずれは同じことになってたよ。
清水 どうやって、オオカミを殺害したんですか。
狩人 その日、稽古場に来るのは知っていました。
婆 冷やかにね。
狩人 私が稽古場の隅に隠れて、オオカミが来て、背後から吹き矢を。
婆 吹き矢が当たって、意識が後ろに向いたときに、私が正面から。
三人 ∴

三人、泣き崩れる

赤ずきん お婆さんと狩人さんは悪くないんです。
全部私が悪いんです。
婆 赤ずきん。
違います。
私が悪いんです。
私が殺したんです。
狩人 違います。
最後にとどめを刺したのは私です。
私が悪いんです。
赤ずきん 違う。私が悪いんです。
清水 ちよつと待ってください。
三人 ∴
清水 分かりました。
あなた達の間に何があつたのか、よくわかりました。
あなた達の気持ち、よくわかります。
オオカミ、本当にひどかつたみたいですね。
誰一人として、良い印象を持つてる人はいませんでした。
今回、調べて、それは本当に感じました。
オオカミに同情的な意見は全くありませんでしたからね。

むしろ、死んでくれてせいせいする。

そんな声もありました。

もしかしたら、あなた達がしたことは、正しいことだったのかもしれない。

劇団はどんな感じなんですか。

三人

::

清水

オオカミを殺してから、劇団はどんな感じなんですか。

婆

良い感じですよ。

それぞれが切磋琢磨して、良い方向に向かっていると思います。

清水

あなたはどう思ってます。

狩人

私もそう思います。

みんな、しっかりと努力していますし、良い方向に進んでいると思います。

清水

あなたもそう思ってる。

赤ずきん

はい。

清水

なるほど。

オオカミがいなくなって、周りの人も喜んでる。

あなた達も、順調だ。

でもね、あなた達がしたことは、良いことじゃありませんよ。

だって、オオカミ殺してるんですから。

そうでしょ。

もつと他に、やりようがあつたと思うんですよ。

俺だってね、色んな人の話を聞いて、オオカミに同情する気持ちは、まるでありませんよ。

存在自体が悪のようなもんでしたから。

でもね、殺しちや駄目ですよ。

どんな理由があれ、あなた達がしたことは悪いことです。

正しいことじゃありません。

違いますか。

三人

::

清水

違いますか。

婆

その通りですよ。

狩人

その通りですよ。

赤ずきん

その通りですよ。

婆

何か他の方法があつたと思います。

狩人

私もそう思います。

赤ずきん

私も。

清水

じゃあ、お疲れさまでした。

帰って良いですよ。

婆

え。

清水

お疲れさまでした。

狩人 でも、
清水 まあ、別に誰かから、あなた達を罰して欲しいって言われてるわけじゃないですからね。
あなた達が自分たちのしたことを、しつかり理解して、一度とこんなことが起こらない
ようにしてくれば、それで良いです。
赤ずきん でも、
清水 一度と起こらないですよね。
婆 はい。
狩人 もちろんです。
赤ずきん もちろんです。
清水 分かってくれて、良かったです。
俺ね、あなた達の劇団のファンなんです。
頑張ってください。
そうだ、特別にあれ見せてもらえます。
赤ずきんさんの一発芸。
お願いします。

赤ずきん、何か一発芸

暗転

曲

語り部 むかしくし、むかしから、人の世界は、不平等でした。
否応なしの不平等もあれば、自らの行いによって生じる不平等もあります。
不平等は残酷なことではあります、それに甘んじることなく、上昇志向のような、努
力を生むことも多々あります。そして、そう言った努力が世界を作ってきたという側面
もあります。
もちろん不平等な世界に甘んじ、努力もせず、厭世的になってしまう場合も多々ありま
す。
一つ言えるのは、努力は大きな意味での世界を作るだけではなく、あなたにとっての、
本当に身近な周囲の世界をも作り上げます。
そして、努力の先には、小さくても、嬉しい結果が待っている場合が多いでしょう。
不平等な世の中を愛することは不可能なことであり、受け入れ、何をするかということ
が最も大事なことでと考えられます。
むかしくし、むかしから、人の世界は、不平等でした。